

大阪教育大学教育学部 学位プログラム

【 2025 】



大阪教育大学

大阪教育大学 教育学部

学位プログラム

【 2025 】

目 次

学位プログラムとは	2
学修成果評価システムとは	3
養成する人材像に必要となる資質・能力とは	4
学校教育教員養成課程	
幼小教育（幼児教育）プログラム	6
幼小教育（小学校教育）プログラム	10
次世代教育（教育探究）プログラム	14
次世代教育（ICT教育）プログラム	18
教科教育プログラム	24
特別支援教育プログラム	28
小学校教育（夜間）5年プログラム	32
養護教諭養成課程	
養護教育プログラム	38
教育協働学科	
教育イノベーション（数理・知能情報）プログラム	44
教育イノベーション（環境安全科学）プログラム	47
教育コミュニティ支援（心理科学）プログラム	50
教育コミュニティ支援（スポーツ健康）プログラム	53
教育コミュニティ支援（芸術表現）プログラム	56
グローバル教育（日本語教育）プログラム	59
グローバル教育（国際協働英語）プログラム	62
電子ポートフォリオ(履修カルテ・教育実習カルテ)操作マニュアル	65

学位プログラムとは

学位プログラムは、平成29年度学部教育より導入し、
各プログラムに定める到達目標(卒業時に身に付ける力)達成型の教育課程として、運用を行っています。
「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」、「教育課程編成・実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)」及び
「入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」を一体的に策定のうえ、
卒業時に到達目標を獲得できることを念頭に置き、カリキュラムを実施することとします。

教員養成課程

教育協働学科

到達目標

- ①豊かな教養と広い視野
- ②教職に必要な素養
- ③指導内容の理解と実践力^{※1}
- ④子どもへの対応の理解
- ⑤ICTや教育データを利活用する力^{※2}
- ⑥教職力量を自らひろく力

- ①豊かな教養と広い視野
- ②教育理解
- ③協働力
- ④探究力
- ⑤専門的知識・技能
- ⑥教育協働実践力

到達目標達成型 学位プログラム

3つのポリシーをコアとする
プログラムシラバス

卒業認定・学位授与の方針
(ディプロマ・ポリシー)

一体的な策定と各段階に
おける目標を明確化

入学者受入れの方針
(アドミッション・ポリシー)

教育課程編成・実施の方針
(カリキュラム・ポリシー)

学校種や専攻の特性に応じたプログラム

- 幼小教育(幼児教育、小学校教育)プログラム
- 次世代教育(教育探究、ICT教育)プログラム
- 教科教育プログラム
- 特別支援教育プログラム
- 小学校教育(夜間)5年プログラム
- 養護教育プログラム

- 教育イノベーション
(数理・知能情報、環境安全科学)プログラム
- 教育コミュニティ支援
(心理学、スポーツ健康、芸術表現)プログラム
- グローバル教育
(日本語教育、国際協働英語)プログラム

学修成果評価システムとは

学業成績や学外実習、課外活動とボランティア活動などから構成される学修成果の蓄積と到達目標への到達度を明らかにするポートフォリオの構築を行います。
学生自身が自己の学びをふり振り返り、次の学びのデザインを行うための新たなツールとして整備し、主体的な学びを促進しようとするものです。

電子ポートフォリオをコアとする学生による学修成果評価システム

学修のふり振り返りと学びのデザイン



ポートフォリオを用いた指導教員との面談を通じた指導・助言



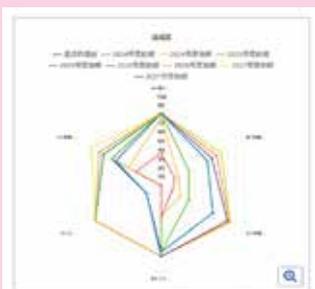
学修プロセスの蓄積

授業の成績や、学外実習、課外活動、ボランティア活動における取組みの成果をポートフォリオに蓄積し、活用を支援します。



学修成果の可視化

学位プログラムの到達目標に対応する授業科目をカリキュラムマップとして整備の上、到達目標への到達度をレーダーチャートにより明らかにします。



教育実践力の育成

キャンパスにおける学びをもとに、学校における教育実習や、インターンシップによる活動を通じて、これからの教職に求められる実践的資質・能力の形成プロセスを確認します。

※教育協働学科の学生は、
教員免許状取得希望者のみ



養成する人材像に必要な資質・能力とは？

本学では、教員や教育協働人材に求められる資質・能力を次のとおり設定しています。
この資質・能力を基準として、履修カルテを活用し、授業やボランティア活動を通して学んだことをふり返り、
次の目標を設定するプロセスを通じて到達点を目指しましょう。

□豊かな教養と広い視野

- 人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- 世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

教員養成課程

□教職に必要な素養

- 教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- 教職員や学校園外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- 人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- 子どもを能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

□指導内容の理解と実践力

- 幼稚園の保育又は小学校の各教科及び所属するコースに対応する中学校・高等学校の教科や教科外の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- 学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校園の実態に応じてカリキュラムマネジメントを行うことの重要性を理解している。
- 子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や保育・授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- 学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や保育・授業づくりができる。

□養護実践力

- 養護の理念や思想、養護学、学校保健や学校安全に係る基礎理論・知識を学び、養護教諭の役割を明確に理解している。
- 健康観察や健康診断の意義や方法、保健室の役割やその機能について理解している。
- 子どもの心身の健康に関して、健康相談や救急処置に係る基礎的な知識・技能を身に付けている。
- 学校におけるICTの活用の意義を理解し、保健管理や保健教育等の実践や学校園務等にICTを活用することができる。

□子どもへの対応の理解

- 生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- 教育相談の意義や理論と幼児・児童・生徒を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや学校園外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- 進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
- 子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。
- 外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- 道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

□ICTや教育データを利活用する力

- 学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や学校園務等にICTを活用するとともに、幼児・児童・生徒のICT活用能力を育成するための保育や授業を構想することができる。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、幼児・児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

□教職力量を自らひろく力

- 実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- 自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- 生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

教育協働学科

□教育理解

- 社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- 教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的な知識を身に付けている。

□協働力

- 他者と協働して課題を分析し、その課題を整理することができる。
- 他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- 課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

□探究力

- エビデンスに基づき、客観的に課題を分析することができる。

- 課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。
- 諸分野の知見を集約し組み合わせ、横断的な観点から探究することができる。

□専門的知識・技能

- 所属する専攻・コースの分野に係る専門的知識・技能を備えている。
- 専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- 専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

□教育協働実践力

- 教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

学校教育教員養成課程

幼小教育（幼児教育）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、幼児を理解する力や基礎的な指導力を身に付け、幼児教育と小学校教育の接続を踏まえた総合的な視点を持って教育に当たることのできる実践力のある幼稚園教員を養成します。

幼稚園の保育に必要な知識・技能を修得し、幼児を中心とする保育を通じて、幼児が遊びを通じた学び等に主体的に関わるように誘うとともに、小学校教育への接続を踏まえた幼児を理解する力、豊かな表現力及び高度な専門的実践力を身につけた教員の養成をめざします。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- ・教職員や園外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・幼児の能動的に環境に関わる態度を育むことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

- ・保育の各領域の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・幼児教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や領域横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、幼稚園の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・幼児の興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、保育の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- ・保育環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮しながら、幼児一人一人の特性に応じた指導計画の立案ができる。

（４）子どもへの対応の理解

- ・幼児を保育する意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、幼児に応じた指導や集団での保育を実践することができる。

- ・教育相談の意義や理論と幼児を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的な取り組みや園外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・幼児の心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。
- ・外国にルーツのある幼児や障がいのある幼児など、特別な配慮や支援を必要とする幼児の特性や社会的包摂の理念を理解した上で、幼稚園教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。

(5) ICT 活用や教育データを利活用する力

- ・幼稚園における ICT の活用の意義を理解し、保育や園務等に ICT を活用するとともに、幼児の直接的・具体的な体験を基盤としながら ICT を活用した保育を構想することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、幼児の学びの改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

(6) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、幼児と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT 活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「幼小連携教育論Ⅰ・Ⅱ」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、保育内容指導法科目、領域専門科目、小学校の各教科に係る教科専門科目、専門教育としての幼稚園教育専門科目と、「幼児教育課程論」などの教職専門科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「幼児理解と教育相談」、「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICT や教育データを利活用する力を育成するため、「幼児教育指導法」などの教職専門科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。

- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、領域や小学校教科に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり、幼稚園等での教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。</p> <p>また、幼児の発達および学びの基礎的課程とその「みとり」、幼児の情動と社会性の発達、障がいのある子どもの理解と支援、保護者の支援などについて理解する。</p> <p>幼児理解と教育相談のための基本姿勢を確認するとともに、各理論の統合的理解や、方法のマルチ・メソッド的な適用をするための観点を学ぶとともに、感情労働についても理解を深める。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や幼児教育における子どもの多様性について理解を深め、保育現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>幼稚園教諭として必要となる各領域に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>
2 回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>幼稚園での保育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>幼稚園教育要領を踏まえ、今日の保育実践の方法と技術を身につける。そのために、附属幼稚園や公立幼稚園などでの観察の機会をなるべく多くもつ。</p> <p>また、幼稚園教諭として必要となる保育内容に関する基礎的知識・技能を総合的に修得するとともに、「幼児教育インターンシップ」による現場観察・体験活動を通じて、様々な業務の理解を含む教職実践に向けた基礎的知識・技能を習得する。</p>

3回生	<p>幼稚園教育要領の特徴や変遷などをふまえ、教育課程編成の視点を学ぶ。また、実践的な模擬保育、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>「しょうがい共生」「多文化共生」「子育て支援」などをめぐって、知識の更新と、相互触発を行う力量をつける。</p> <p>また、これまでの科目を修得した上で附属幼稚園での実習を行い、保育現場における経験から、成果と課題を再認識する。</p> <p>その後、最新の保育課題や子育ての課題や対策実践についての知見を、各種メディアや専門研修機関の情報誌やサイトを通して主体的に収集する。そして、その知見を吟味し、自らの意見を述べあうことで、実践の主体者としての意識を涵養する。</p>
4回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

幼小教育（小学校教育）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、児童を理解する力や基礎的な指導力を身に付け、幼児教育と小学校教育の接続を踏まえた総合的な視点を持って教育に当たることのできる実践力のある小学校教員を養成します。

幼児教育からの接続を踏まえた小学校の全教科にわたる教科指導に必要となる知識・技能を修得し、児童を自律的な学習者として導くことを目的として、児童の主体的な学びを支援するとともに、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら、学校教育の質の向上に寄与することができる教員の養成をめざします。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- ・教職員や学校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・児童を能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

- ・小学校の各教科の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

（４）子どもへの対応の理解

- ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童に応じた指導や集団指導を実践することができる。

- ・教育相談の意義や理論と児童を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

(5) ICT 活用や教育データを利活用する力

- ・学校における ICT の活用の意義を理解し、授業や校務等に ICT を活用するとともに、児童の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

(6) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT 活用能力などを育む教養教育の質的充実に努める。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「幼小連携教育論Ⅰ・Ⅱ」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目、教職や教育実践、教科教育からなる系列専門科目などの科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICT や教育データを利活用する力を育成するため、「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と、「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編

成する。

- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、領域や小学校教科に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり、小学校等での教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。</p> <p>児童の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p>
2 回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p>

	<p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、小学校教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また、教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。</p> <p>さらには、学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3回生	<p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と、総合的な学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び、実践を行う。</p> <p>また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>附属学校や協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

次世代教育（教育探究）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、変化が激しく予測困難な時代に対応するための学習観・授業観の転換を担う教師，すなわち，学習者中心の学びを支えることができる教師の育成を担うべく，児童・生徒を理解する力や基礎的な指導力を身に付け，次世代を切り拓く子どもたちの様々な課題に対処でき，次世代の学校教育をけん引できる教員を養成します。

子ども一人一人の特性や学習到達度等に応じた個別最適な学び，各教科での学習を実社会での課題発見・解決に活かしていくための教科横断的な学び，学びへの意欲を引き出すためのファシリテーション，子どもたちの多様化への対応等に関する知識・技能を基盤に，学習者を中心とする主体的・対話的で深い学びと他者と協働した探究的な学びを通じて児童・生徒を自律的な学習者へと導くための学習指導と生徒指導のあり方を探究し続ける教員の養成をめざします。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- ・教職員や学校外の専門家，家庭や地域等を含めた他者と連携し，協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し，学校教育に関する社会的，制度的，経営的事項，学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・児童を能動的，自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

- ・小学校の各教科や教育学，心理学，道徳教育学を踏まえた現代の教育課題に対応するための指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し，教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上，実施するとともに，学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら，学習指導や授業の設計，実践，評価，改善を行う仕組みを構想することができる。
- ・学習環境の整備ができ，また，アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案

や授業づくりができる。

(4) 子どもへの対応の理解

- ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論と児童を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

(5) ICT や教育データを利活用する力

- ・学校における ICT の活用の意義を理解し、授業や校務等に ICT を活用するとともに、児童の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

(6) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT 活用能力などを育む教養教育の質的充実に努める。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「小・中一貫教育概論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目、「学校における ICT 活用」、「インクルーシブ教育実践論」からなる専攻共通科目、教育学、心理学、道徳教育学に加えて現代の教育課題に対応するための専門的知識・技能を修得するコース専門科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育

相談の理論と方法」,「道徳教育論」,「特別活動論」,「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と,「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。

- ICT や教育データを利活用する力を育成するため,「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と,「教育データの活用 I」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため,学校インターンシップ科目,「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と,「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は,講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は,全学共通の評価基準を明示の上,プレゼンテーション,レポート,試験など,多様な方法により行うとともに,どのように成績に反映されるか,シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い,授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件 (アドミッション・ポリシー)

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能,小学校教科に関わる専門分野への関心があり,それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し,多様な人々とコミュニケーションを図り,協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり,小学校等での教職に就くことを強く希望し,探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し,修得する。</p> <p>教職の意義や教員の役割,職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し,教職への動機づけを図る。</p> <p>児童の発達および学習の基礎的過程,いじめや不登校などの諸課題,障がいのある児童の理解と支援,教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び,現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め,学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>

2 回生	<p>人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身につけるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，小学校教諭に必要な基礎的な知識・技能や方法を修得する。また，教材研究・開発の方法を修得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身につける。</p> <p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的な知識・技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び，実践を行う。</p> <p>また，実践的な模擬授業，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>附属学校や協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4 回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的な知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。</p>

次世代教育（ICT 教育）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、変化が激しく予測困難な時代に対応するための学習観・授業観の転換を担う教師，すなわち，学習者中心の学びを支えることができる教師の育成を担うべく，児童・生徒を理解する力や基礎的な指導力を身に付け，次世代を切り拓く子どもたちの様々な課題に対処でき，次世代の学校教育をけん引できる教員を養成します。

ICT リテラシー，データサイエンス，プログラミング，デジタル教材活用等に関する高度な専門的知識・技能を修得し，学校内の ICT 普及促進，ICT 活用による校務効率化や授業開発などの教育課題の発見・解決や，学習履歴等教育ビッグデータの活用による学校教育の質の向上について，リーダー的役割を担える教員の養成をめざします。

なお，卒業要件を満たすことにより取得できる教員免許状を，①高等学校教諭一種免許状（情報）及び小学校教諭一種免許状，②高等学校教諭一種免許状（情報），中学校教諭一種免許状（数学）及び高等学校教諭一種免許状（数学）とし，①②のいずれかを選択して履修します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（1）豊かな教養と広い視野

- ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT 活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（2）教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想，並びに教職の意義，教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- ・教職員や学校外の専門家，家庭や地域等を含めた他者と連携し，協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し，学校教育に関する社会的，制度的，経営的事項，学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・児童・生徒を能動的，自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（3）指導内容の理解と実践力

- ・高等学校及び小学校の各教科又は中学校・高等学校の教科指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し，教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上，実施するとともに，学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら，学習指導や授業の設計，実践，評価，改善を行う仕組みを構想することができる。

<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。
<p>(4) 子どもへの対応の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。 ・教育相談の意義や理論と児童・生徒を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。 ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。 ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。 ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。 ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。
<p>(5) ICT や教育データを利活用する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における ICT の活用の意義を理解し、授業や校務等に ICT を活用するとともに、児童・生徒の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。
<p>(6) 教職力量を自らひらく力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な教育活動に参画し、児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。 ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。 ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

<ul style="list-style-type: none"> ●豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT 活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。 ●教職に必要な素養を身に付けるため、「小・中一貫教育概論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。 ●指導内容の理解と実践力を育成するため、「学校における ICT 活用」、「インクルーシブ教育実践論」からなる専攻共通科目、情報（ICT リテラシー、データサイエンス、プログラミングなど）に関する専門的知識・技能を修得するコース専門科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目、並びに「教
--

科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。さらに①では、小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目を、②では、数学に関する専門科目を編成する。

- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICT や教育データを利活用する力を育成するため、「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と、「教育データの活用Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひろく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、教科に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり、教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標（ICT 教育コース①）

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。</p> <p>児童・生徒の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける</p>

	<p>教師のための素地を形成する。</p> <p>教育現場でのICT活用や情報科学の入門にあたる知識・技能を修得する。</p> <p>小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>
2回生	<p>人権の尊重, 子どもの生活背景について理解し, 学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>また, 今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに, 学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について, 教科を横断した探究的な学び, 教育データの活用方法, ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また, 学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り, 学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>学習指導要領を踏まえ, 教育課程編成の視点を学ぶとともに, 小学校教諭及び情報科教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また, 教材研究・開発の方法を習得するとともに, 学習指導案を作成し, それに基づいて模擬授業を実施し, 授業づくりの基本を身に付ける。</p> <p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し, 道徳教育に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>さらには, 学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて, 教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3回生	<p>教師が行う子どもの指導と援助に関して, 心理学の基礎的な理論や教育相談(カウンセリングを含む)などの技法, いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と, 総合的な学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について, 教科を横断した探究的な学び, 教育データの活用方法, ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び, 実践を行う。</p> <p>また, 実践的な模擬授業, 指導案作成及び教材研究を通じて, 更なる指導技術の向上を図り, 教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>附属学校や協力校等での教育実習を行い, 学校現場における経験を踏まえ, 学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて, 更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体につ</p>

	いて，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。
--	-------------------------

◆各回生の到達目標（ICT 教育コース②）

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。</p> <p>教職の意義や教員の役割，職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し，教職への動機づけを図る。</p> <p>生徒の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め，学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>教育現場での ICT 活用や情報科学の入門にあたる知識・技能を修得する。</p>
2 回生	<p>人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，数学科教諭及び情報科教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また，教材研究・開発の方法を習得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身に付ける。</p> <p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な</p>

	<p>学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び、実践を行う。</p> <p>また、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>附属学校や協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

教科教育プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、小・中・高等学校の各教科指導に必要となる知識・技能を修得し、児童・生徒を自律的な学習者へと導くことを目的として、児童・生徒の主体的な学びを支援するとともに、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら、学校教育の質の向上に寄与することができる教科指導力のある教員を養成します。

そのために、ICTを活用した学習指導方法、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力、各教科の専門性を踏まえ、子どもの実態に応じた教材研究を行いながら、主体的な学びを支援する学習指導を構想することができる能力、小学校の教科担任制を見通した教科指導ができる能力を養います。コースには、国語教育、英語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、技術教育、家政教育、保健体育、音楽教育、美術・書道教育があります。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- ・教職員や学校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・児童・生徒を能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）指導内容の理解と実践力

- ・小学校の各教科及び所属するコースに対応する中学校・高等学校の教科指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学

び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

(4) 子どもへの対応の理解

- ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論と児童・生徒を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。
- ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

(5) ICT や教育データを利活用する力

- ・学校における ICT の活用の意義を理解し、授業や校務等に ICT を活用するとともに、児童・生徒の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

(6) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT 活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「小・中一貫教育概論」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、各教科に関する専門的知識・技能を修得するコース専門科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育

相談の理論と方法」,「道徳教育論」,「特別活動論」,「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と,「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。

- ICT や教育データを利活用する力を育成するため,「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と,「教育データの活用 I」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため,学校インターンシップ科目,「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と,「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は,講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は,全学共通の評価基準を明示の上,プレゼンテーション,レポート,試験など,多様な方法により行うとともに,どのように成績に反映されるか,シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的で開催し,授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能,教科に関わる専門分野への関心があり,それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し,多様な人々とコミュニケーションを図り,協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり,教職に就くことを強く希望し,探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し,修得する。</p> <p>教職の意義や教員の役割,職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し,教職への動機づけを図る。</p> <p>児童・生徒の発達および学習の基礎的過程,いじめや不登校などの諸課題,障がいのある児童の理解と支援,教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び,現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め,学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>小学校教諭及び中学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>

2 回生	<p>人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，小学校教諭及び中学校教諭に必要な基礎的な知識・技能や方法を修得する。また，教材研究・開発の方法を習得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身に付ける。</p> <p>さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的な知識・技能を修得する。</p>
3 回生	<p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について，教科を横断した探究的な学び，教育データの活用方法，ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び，実践を行う。</p> <p>また，小・中学校教諭として必要となる教科に関する高度な専門的知識・技能を修得し，実践的な模擬授業，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>附属学校や協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4 回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。</p>

特別支援教育プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、特別支援学校及び通常の学校における特別支援教育の各領域を指導するために必要な知識・技能と児童・生徒を自律的な学習者として導く視点を有し、子どもの多様性の理解のもと、児童・生徒一人一人の学びに寄り添い、学習者に応じた学習指導を行うとともに、インクルーシブ教育の理念と環境整備の必要性を理解して、障がいのある子どもと障がいのない子どもがともに学ぶ教育を担うことのできる教員を養成します。

学生は2年次以降、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、発達障がいの6つの障がい種のいずれかのコースに所属して、それぞれの専門領域に関する授業や学校インターンシップ科目を受講し専門性を深めるとともに、インクルーシブ教育の理念と特別支援教育全般にわたる幅広い知識・技能を身に付けます。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

(1) 豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

(2) 教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- ・教職員や学校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・児童・生徒を能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

(3) 指導内容の理解と実践力

- ・小学校の各教科及び特別支援教育の各領域を指導するために必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案

や授業づくりができる。

(4) 子どもへの対応の理解

- ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論と児童・生徒を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

(5) ICT や教育データを利活用する力

- ・学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを活用するとともに、児童・生徒のICT活用能力を育成するための授業を構想することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

(6) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実に努める。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「人権教育の基礎」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員Ⅰ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、特別支援教育の高度な理解に資する特別支援教育専門科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習Ⅰ」や「学習者中心の授業デザインⅠ」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」

や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。

- ICT や教育データを利活用する力を育成するため、「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と、「教育データの活用 I」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的で開催し、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、特別支援教育に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの、成長に関わることへの関心があり、特別支援教育に携わる教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教職の意義や教員の役割、職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し、教職への動機づけを図る。</p> <p>児童・生徒の発達および学習の基礎的過程、いじめや不登校などの諸課題、障がいのある児童の理解と支援、教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>特別支援学校教諭として必要となる特別支援教育に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>
2 回生	<p>人権の尊重、子どもの生活背景について理解し、学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>また、今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を</p>

	<p>身に付けるとともに、学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>学習指導要領を踏まえ、教育課程編成の視点を学ぶとともに、特別支援学校教諭に必要な視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱の5領域と重複・LD等の内容に係る心理・生理・病理及び教育課程・指導法の技能や方法、通常の学校のユニバーサルデザインの授業等に対する基礎的な知識・技能を身につける。また、教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。</p> <p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し、道徳教育に関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>さらには、学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的な知識・技能を修得する。</p>
3回生	<p>教師が行う子どもの指導と援助に関して、心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法、いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と、総合的な学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの発展的な理論を学び、実践を行う。</p> <p>また、特別支援学校教諭として必要となる視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱の5領域と重複・LD等の内容に係る心理・生理・病理及び教育課程・指導法の知識や技能及び方法に対する理解を深め、実践的な模擬授業、指導案作成及び教材研究を通じて、更なる指導技術の向上を図り、教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>附属学校や協力校等での教育実習を行い、学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて、更なる深い専門的な知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

小学校教育（夜間）5年プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、昼間の勤労経験や教育現場でのインターンシップ活動など豊富な経験をもとに、豊かな人間性と社会性や優れた実践的能力を備え、かつ、小学校の全教科にわたる教科指導に必要な知識・技能を有し、児童を自律的な学習者として導くことを目的として、児童の主体的な学びを支援するとともに、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善に取り組みながら、個々の多様な経験に基づく知識・技能を生かして学校教育の質の向上に寄与することができる個性豊かな教員を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（1）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（2）教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- ・教職員や学校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・児童を能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（3）指導内容の理解と実践力

- ・小学校の各教科の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- ・学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- ・子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- ・学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

（4）子どもへの対応の理解

- ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論と児童を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的

な取り組みや学校外の専門家等と連携する重要性を理解している。

- ・進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- ・道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

(5) ICT や教育データを利活用する力

- ・学校における ICT の活用の意義を理解し、授業や校務等に ICT を活用するとともに、児童の ICT 活用能力を育成するための授業を構想することができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、児童の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

(6) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT 活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「保育と子ども」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全 a・b」などの教職専門科目と、「ファシリテーターとしての教員 I」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 指導内容の理解と実践力を育成するため、小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目、教職や教育実践、教科教育からなる系列専門科目などの科目と、「教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）」などの教職専門科目、並びに「教科横断と探究学習 I」や「学習者中心の授業デザイン I」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学 a・b」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論 a・b」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- ICT や教育データを利活用する力を育成するため、「ICT 活用の理論と方法」などの教職専門科目と、「教育データの活用 I」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編

成する。

- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「教育実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的で開催し、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高等学校で履修した教科・科目における基礎学力を有している人
- 教職に必要な知識や技能、教科に関わる専門分野への関心があり、それらを学ぶための十分な学力と適性を有している人
- 社会の多様性を理解し、多様な人々とコミュニケーションを図り、協働できる能力を身に付けようと思っている人
- 子どもたちの成長に関わることへの関心があり、小学校で教職に就くことを強く希望し、探究心を持って主体的に学ぶ態度を有している人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教職の意義や教員の役割、職務内容について学び、教職への動機づけを図る。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め、学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>小学校教諭として必要となる各教科に関する基礎的知識・技能を修得する。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育を基盤とした4つの領域について、教科を横断した探究的な学び、教育データの活用方法、ファシリテーターとしての教師の役割及び学習者を中心とする授業づくりの基礎的な理論を学ぶ。また、学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り、学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>小学校教諭に必要な基礎的知識・技能や方法を修得する。また、教材研究・開発の方法を習得するとともに、学習指導案を作成し、それに基づいて模擬授業を実施し、授業づくりの基本を身に付ける。</p>

	<p>学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて、教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3 回生	<p>人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>児童の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>教員が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付ける。</p> <p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>教材開発の方法を習得するとともに，学習指導案を作成し，それに基づいて模擬授業を実施し，授業づくりの基本を身に付ける。</p>
4 回生	<p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>学習指導要領を踏まえ，教育課程編成の視点を学ぶとともに，今日の授業づくりの方法と技術を身に付ける。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>また，実践的な模擬授業，指導案作成及び教材研究を通じて，更なる指導技術の向上を図り，教育実習の履修前に修得すべき知識・技能を修得する。</p> <p>附属学校や協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
5 回生	<p>教員になるために必要と考える専攻専門科目の履修を通じて，更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>これまでの科目を修得した上で協力校等での教育実習を行い，学校現場における経験を踏まえ，学修成果と今後の課題を再認識する。</p> <p>5年間の教職課程の集大成として教員として必要な知識・技能全体について，到達点と課題を確認し，課題克服に努める。</p>

養護教諭養成課程

養護教育プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

養護教育プログラムでは、教育学の基礎の上に、医学・看護学・養護学など、幅広い専門分野の基礎知識と実践能力を備え、健康を保持増進する能力を子どもたちが獲得できるように、様々な機会を捉え支援する資質を備えた養護教諭を養成します。そのため、幅広い教養教育の基礎の上に立って、各専門分野の学習を深めるとともに、臨床（病院）実習、養護実習などをとおして実践能力の向上をめざします。さらに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養います。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教職に必要な素養

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができています。
- ・教職員や学校園外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- ・人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・子どもを能動的、自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

（３）養護実践力

- ・養護の理念や思想、養護学、学校保健や学校安全に係る基礎理論・知識を学び、養護教諭の役割を明確に理解している。
- ・健康観察や健康診断の意義や方法、保健室の役割やその機能について理解している。
- ・子どもの心身の健康に関して、健康相談や救急処置に係る基礎的な知識・技能を身に付けている。
- ・学校におけるICTの活用の意義を理解し、保健管理や保健教育等の実践や学校園務等にICTを活用することができる。

（４）子どもへの対応の理解

- ・生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童・生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論と幼児・児童・生徒を支援するために必要となる基礎的な知識を有し、組織的な取り組みや学校園外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができています。
- ・外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする

る子どもの特性や社会的包摂の理念を理解した上で、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。

- ・ 道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

(5) 教職力量を自らひらく力

- ・ 実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・ 自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- ・ 生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を身に付けるため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教職に必要な素養を身に付けるため、「人権教育の基礎」などの教職基礎科目、「教育総論」や「教職へのとびら」、「学校の役割と経営」、「学校安全」などの教職専門科目を体系的に編成する。
- 養護実践力を育成するため、「学校保健」、「養護学」や「救急処置」、「健康相談活動の理論と方法」などの養護教育専門科目をICT活用の実践を盛り込みながら体系的に編成する。
- 子どもへの対応の理解を深めるため、「発達と学習の心理学」、「生徒指導論」、「教育相談の理論と方法」、「道徳教育論」、「特別活動論」、「総合的な学習の時間の指導法」や「特別支援教育の基礎」などの教職専門科目と、「ダイバーシティと教育」や「現代社会と子どもの権利」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 教職力量を自らひらく力を育成するため、学校インターンシップ科目、「養護実習」や「教職実践演習」などの教職専門科目と、「教職のための省察入門」などのフラッグシップ指定科目を体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 養護教諭をめざすために必要な基礎学力があり、十分な教育実践力を身に付けようとする意欲にあふれる人
- 養護教諭になることを強く希望し、その意志を持ち続けることのできる人
- 子どもたちの健康な学校生活を支援することにやりがいと使命を感じる人

●人と明るく温かなコミュニケーションが図れる能力や個性を備えている人
 ※生物，化学を入学までに学習していることが望ましい。

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。</p> <p>教職の意義や教員の役割，職務内容及び教育を考えていく上で必要不可欠な基本的理念や思想を歴史的・体系的に理解し，教職への動機づけを図る。</p> <p>幼児・児童・生徒の発達および学習の基礎的過程，いじめや不登校などの諸課題，障がいのある児童の理解と支援，教育測定と評価などについて理解する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深め，学校現場の観察経験から学び続ける教師のための素地を形成する。</p> <p>養護教諭として，からだの構造・機能，子どもの発育・発達に関する基礎的知識を修得するとともに，子どもの健康の保持増進を考えていく上で必要不可欠な基本的理念・知識を体系的に理解する。</p>
2 回生	<p>人権の尊重，子どもの生活背景について理解し，学校の役割と経営についての基礎知識を修得するとともに学習指導や学級経営等における教師として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>また，今日における生徒指導上の諸課題に関する理論的・実践的な認識を身に付けるとともに，学校安全や危機管理についての基本的事項を理解する。</p> <p>道徳教育の歴史および主要な道徳教育理論・方法について理解し，道徳教育に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>また，学校現場での教育活動から自らの実践を振り返り，学び続ける教師となるための基礎的な資質・能力を育成する。</p> <p>健康診断，保健教育や保健室経営等における養護教諭として必要な指導力の基礎を養う。</p> <p>子どもの援助と指導に関して，看護学・精神保健学の基本的理論と技法・技能を修得する。</p> <p>さらには，学校インターンシップによる現場観察・体験活動を通じて，教職実践に向けた基礎的知識・技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教師が行う子どもの指導と援助に関して，心理学の基礎的な理論や教育相談（カウンセリングを含む）などの技法，いじめや不登校など子どもの問題行動について理解する。</p> <p>子ども理解と自治活動の指導を中心とした特別活動の視点と，総合的な学習の時間の指導法を理解する。</p> <p>健康相談の知識・技能を修得するとともに，救急処置実習・臨床実習を通</p>

	<p>して、実践的な更なる技能の向上を図り、養護実習の履修前に知識・技能を深める。</p> <p>養護実習を行い学校現場における経験を踏まえ、学修成果と今後の課題を再認識する。</p>
4回生	<p>養護教諭になるために必要な養護専門科目の履修と卒業研究を通して、更なる深い専門的知識と技能を修得する。</p> <p>4年間の集大成として養護教諭として必要な知識・技能全体について、到達点と課題を確認し、課題克服に努める。</p>

教育協働学科

教育イノベーション（数理・知能情報）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは数理・AI・データサイエンスに関する高度な専門的知識・技能を効果的に活用し、学校や教育関連企業と連携・協働して、データ分析や情報マネジメントによる教育現場のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進することにより、多様な教育課題の解決方法を創造できる人材を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（1）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（2）教育理解

- ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

（3）協働力

- ・他者と協働して数理・AI・データサイエンスに関する課題を分析し、その課題を整理することができる。
- ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

（4）探究力

- ・エビデンスに基づき、客観的に数理・AI・データサイエンスに関する課題を分析することができる。
- ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。
- ・諸分野の知見を集約し組み合わせ、横断的な観点から探究することができる。

（5）専門的知識・技能

- ・数理・AI・データサイエンスに係る専門的知識・技能を備えている。
- ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

（6）教育協働実践力

- ・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的ス

キルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、数理・AI・データサイエンスに関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、数理・AI・データサイエンスに関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 数理・AI・データサイエンスに関する専門性を有しつつ教育理解をもって多様な専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校と地域社会と共に探究心を持って、多様な教育課題の解決を自ら図る意欲のある人
- 数理・AI・データサイエンスに関する高度な知識や高い技能を修得し、それらとICTを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人
- 確かな学力と旺盛な知的な好奇心、人間への深い理解を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる数理・AI・データサイエンスに関する基礎的知識を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる数理・AI・データサイエンスに関する基礎的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となる数理・AI・データサイエンスに関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題克服に努めるとともに，創造探究演習Ⅳの学びを通じて，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

教育イノベーション（環境安全科学）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは自然科学や生活科学，安全科学など多様な専門的知識・技能を融合し，学校や教育関連企業、行政、自治体などと連携・協働して，身の回りの環境から地球環境に至る幅広い課題を探究することにより，多様な教育課題の解決方法を創造できる人材を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文，社会，自然，芸術，スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び，キャリア形成に向けた，ICT活用能力，言語運用能力，コミュニケーション力，および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し，異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教育理解

- ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し，学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- ・教育の理念や歴史及び思想，子どもの発達と心理の理解，教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論，学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

（３）協働力

- ・他者と協働して自然科学や生活科学，安全科学などに関する課題を分析し，その課題を整理することができる。
- ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

（４）探究力

- ・エビデンスに基づき，客観的に自然科学や生活科学，安全科学などに関する課題を分析することができる。
- ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。
- ・諸分野の知見を集約し組み合わせて，横断的な観点から探究することができる。

（５）専門的知識・技能

- ・自然科学や生活科学，安全科学などに関する専門的知識・技能を備えている。
- ・専門的知識・技能を用いて，専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達，表現することができる。
- ・専門的知識・技能を主体的に活用し，行動することができる。

（６）教育協働実践力

- ・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、自然科学や生活科学、安全科学などに関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、自然科学や生活科学、安全科学などに関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 自然科学や生活科学、安全科学などに関する専門性を有しつつ教育理解をもって多様な専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校と地域社会と共に探究心を持って、多様な教育課題の解決を自ら図る意欲のある人
- 自然科学や生活科学、安全科学などに関する高度な知識や高い技能を修得し、それらとICTやデータサイエンスを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人
- 確かな学力と旺盛な知的な好奇心、人間への深い理解を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる自然科学や生活科学，安全科学などに関する基礎的知識を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる自然科学や生活科学，安全科学などに関する基礎的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となる自然科学や生活科学，安全科学などに関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題克服に努めるとともに，創造探究演習Ⅳの学びを通じて，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

教育コミュニティ支援（心理科学）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、人間の生涯にわたる心理や社会の課題を解決するために必要な理論やスキル、および人間の発達とコミュニティのあり方に関する知識を修得し、学校・家庭・地域・企業等と連携・協働して、人々が安心して生活できる社会のあり方を探究することにより、多様な教育課題の解決を支援できる人材を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教育理解

- ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

（３）協働力

- ・他者と協働して、社会や教育現場における課題を心理学や生涯教育学、社会福祉学の視点から分析、整理することができる。
- ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

（４）探究力

- ・エビデンスに基づき、客観的に心理学や生涯教育学、社会福祉学に関する課題を分析することができる。
- ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。
- ・諸分野の知見を集約し組み合わせ、横断的な観点から探究することができる。

（５）専門的知識・技能

- ・心理学や生涯教育学、社会福祉学に係る専門的知識・技能を備えている。
- ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

（６）教育協働実践力

- ・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的ス

キルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、心理学や生涯教育学、社会福祉学に関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、心理学や生涯教育学、社会福祉学に関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 心理学や生涯教育学・社会教育学、社会福祉学に関する専門的知識とスキルを身につけ、学校や地域との連携・協働のもと、多様な教育課題の改善や解決に貢献する意欲のある人
- 公認心理師、社会教育主事・社会教育士、図書館司書、社会福祉主事、児童心理司、児童福祉司などの資格等を取得することに関心のある人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史、子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p>

	<p>教育協働人材として必要となる心理学や生涯教育学，社会福祉学に関する基礎的知識を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる心理学や生涯教育学，社会福祉学に関する基礎的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3回生	<p>教育協働人材として必要となる心理学や生涯教育学，社会福祉学に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題克服に努めるとともに，創造探究演習Ⅳの学びを通じて，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

教育コミュニティ支援（スポーツ健康）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、高いスポーツ実技力を有した学生がスポーツの普遍的価値と社会における有用性、人間の心理的発達や機能発達におけるスポーツの重要性と有効性、心身の健康や運動行動、スポーツ活動などについての原理や方法を学びます。そして、学校・家庭・地域・企業等と連携・協働して、様々な人々が安全かつ健康にスポーツを実践・交流することができる指導力を身に付け、多様な教育課題の解決を支援できる人材を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教育理解

- ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

（３）協働力

- ・他者と協働してスポーツや健康に関する課題を分析し、その課題を整理することができる。
- ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

（４）探究力

- ・エビデンスに基づき、客観的にスポーツや健康に関する課題を分析することができる。
- ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。
- ・諸分野の知見を集約し組み合わせて、横断的な観点から探究することができる。

（５）専門的知識・技能

- ・スポーツや健康に係る専門的知識・技能を備えている。
- ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

（６）教育協働実践力

・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、スポーツや健康に関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、スポーツや健康に関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高いスポーツ実技力ならびにスポーツと健康に関する専門性と教育理解を備え、専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校や地域と共に探究心を持って、多様な教育課題の解決を図る意欲のある人
- スポーツや健康に関する高度な知識や技能、さらには様々なニーズに対応できるスポーツ実践力を修得し、それらとICTやデータサイエンスを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人
- 確かな学力と旺盛な知的な好奇心、人間への深い愛情と理解を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となるスポーツや健康に関する基礎的知識を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となるスポーツや健康に関する基礎的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となるスポーツや健康に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題克服に努めるとともに，創造探究演習Ⅳの学びを通じて，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

教育コミュニティ支援（芸術表現）プログラム

取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、音楽及び美術の普遍的価値と人間社会における有用性ならびに人間の心理的発達における芸術の重要性と有効性を理解し、学校・家庭・地域・企業等と連携・協働して、芸術の実践と交流によって社会における様々な人々をつなぐ方策を探究することにより、多様な教育課題の解決を支援できる人材を養成します。
--

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

（１）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（２）教育理解

- ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

（３）協働力

- ・他者と協働して音楽及び美術に関する課題を分析し、その課題を整理することができる。
- ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

（４）探究力

- ・エビデンスに基づき、客観的に音楽及び美術に関する課題を分析することができる。
- ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。
- ・諸分野の知見を集約し組み合わせ、横断的な観点から探究することができる。

（５）専門的知識・技能

- ・音楽及び美術に係る専門的知識・技能を備えている。
- ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

（６）教育協働実践力

- ・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代におけ

る多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、音楽及び美術に関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、音楽及び美術に関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 芸術に興味・関心を持ち、教育及び芸術文化の発展に幅広く貢献したい人
- 専門領域の高度な表現能力を修得し、地域社会や学校教育現場で指導力を発揮したいと志す人
- コミュニケーション能力を発揮し、他の人々と協働し、教育及び芸術文化の多様な課題の解決を自ら図る意欲のある人
- 教育や社会における芸術表現の在り方について、実践的かつ持続的な活動を通して探求できる人
- 複雑化した現代社会において、人間らしく生きるための糧となる芸術の本質を追求・理解したい人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる音楽及び美術に関する基礎的知識を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる音楽及び美術に関する専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となる音楽及び美術に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題克服に努めるとともに，創造探究演習Ⅳの学びを通じて，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

グローバル教育（日本語教育）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、日本語及び日本文化に関する専門的知識を修得し、学校・家庭・地域・企業等と連携・協働して、異文化間のコミュニケーションと相互理解を率先して推進することにより、多様な教育課題の解決方法を創造できる人材を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

<p>(1) 豊かな教養と広い視野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
<p>(2) 教育理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
<p>(3) 協働力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働して日本語及び日本文化に関する問題を分析し、その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。
<p>(4) 探究力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビデンスに基づき、客観的に日本語及び日本文化に関する課題を分析することができる。 ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。 ・諸分野の知見を集約し組み合わせて、横断的な観点から探究することができる。
<p>(5) 専門的知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語及び日本文化に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。
<p>(6) 教育協働実践力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代にお

ける多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、日本語及び日本文化に関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、日本語及び日本文化に関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 日本語・日本文化に関する専門性を有しつつ教育理解をもって多様な専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校と地域社会と共に探究心を持って、多様な教育課題の解決を自ら図る意欲のある人
- 日本語・日本文化に関する高度な知識や高い技能を修得し、それらとICTやデータサイエンスを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人
- 確かな学力と旺盛な知的な好奇心、人間への深い理解を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1回生	豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し、修得する。 教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史、子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。

	<p>ダイバーシティ教育の基礎について学び、現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる日本語及び日本文化に関する基礎的知識を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに、社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる日本語及び日本文化に関する基礎的知識・技能を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また、教育協働の概念を踏まえ、アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3回生	<p>教育協働人材として必要となる日本語及び日本文化に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また、教育協働の概念を踏まえ、教育コラボレーション演習、コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし、教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し、課題克服に努めるとともに、創造探究演習Ⅳの学びを通じて、社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

グローバル教育（国際協働英語）プログラム
取得できる学位：学士（教育学）

◆プログラムの概要と人材養成のねらい

本プログラムでは、異なる文化、考え方を尊重し、共感を持ちながら、英語の運用能力と発信力を持って積極的にコミュニケーションを行うとともに、各国・地域の教育モデルを深く理解することにより、国際的な視野から新たな教育の在り方の創造や多様な教育課題の解決に貢献できる人材を養成します。

◆プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

<p>(1) 豊かな教養と広い視野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本的知識とアカデミックライティングなどの初年次に必要な基本的スキルを学び、キャリア形成に向けた、ICT活用能力、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考からなる汎用基礎力を身に付けている。 ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。
<p>(2) 教育理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会や教育現場のグローバル化や多様な子どもへの対応を理解し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。 ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、学校安全及びICTや教育データの活用に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。
<p>(3) 協働力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働して高度な英語運用能力と国際協働に関する問題を分析し、その課題を整理することができる。 ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。 ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。
<p>(4) 探究力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エビデンスに基づき、客観的に高度な英語運用能力と国際協働に関する課題を分析することができる。 ・課題発見・解決や新たな価値創出に向けて探究するための計画を立案することができる。 ・諸分野の知見を集約し組み合わせ、横断的な観点から探究することができる。
<p>(5) 専門的知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な英語運用能力と国際協働に係る専門的知識・技能を備えている。 ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。 ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。
<p>(6) 教育協働実践力</p>

・教育的視点からキャリア形成の意義を学ぶとともに、教育協働人材のための汎用的スキルを修得し、学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

◆カリキュラム立案と実施方法についての方針（カリキュラム・ポリシー）

- 豊かな教養と広い視野を育成するため、学術的な基本的知識を獲得させるとともに大学生生活に必要な資質・能力やキャリア形成に向けた言語運用能力、ICT活用能力などを育む教養教育の質的充実を図る。
- 教育の理解を深めるため、教育理解科目における「教育基礎セミナー」、「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「教育総論」、「学校の役割と経営」、「学校安全」、「教育データの活用Ⅰ・Ⅱ」などにより体系的に編成する。
- 協働力を育成するため、協働共通科目「教育協働概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育協働実践デザイン演習」などにより体系的に編成する。
- 探究力を育成するため、高度な英語運用能力と国際協働に関わる課題解決型学習（PBL）の科目である「創造探究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を編成する。
- 専門的知識・技能を身に付けさせるため、専門教育科目群において、高度な英語運用能力と国際協働に関する専攻共通科目及び専攻分野科目を体系的に編成する。
- 教育協働実践力を育成するため、協働共通科目「教育協働とキャリアスタディ」、「アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱ」、「教育コラボレーション演習」、「コミュニケーション実践演習」、「連携協働活動演習」などにより体系的に編成する。
- 各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- 成績評価は、全学共通の評価基準を明示の上、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記する。
- 指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に行い、授業改善に取り組む。

◆プログラムの履修要件（アドミッション・ポリシー）

- 高度な英語運用能力と国際協働に関する専門性を有しつつ教育理解をもって多様な専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校と地域社会と共に探究心を持って、多様な教育課題の解決を自ら図る意欲のある人
- 高度な英語運用能力と国際協働に関する高度な知識や高い技能を修得し、それらとICTやデータサイエンスを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人
- 確かな学力と旺盛な知的好奇心、人間への深い理解を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人

◆各回生の到達目標

履修回生	到達目標
1 回生	<p>豊かな教養と広い視野を醸成する上で必要不可欠な基本的知識・技能を体系的に理解し，修得する。</p> <p>教育を考えていく上で必要となる教育の理念や歴史，子どもの発達に関する基本的知識や教育協働の基礎的概念を修得する。</p> <p>ダイバーシティ教育の基礎について学び，現代社会や学校教育における子どもの多様性について理解を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる高度な英語運用能力と国際協働に関する基礎的知識を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p>
2 回生	<p>教育を考えていく上で必要となる学校の役割や学校安全に関する基本的知識を修得し教育の基礎理論を理解するとともに，社会教育や教育協働に関する関心を深める。</p> <p>教育協働人材として必要となる高度な英語運用能力と国際協働に関する基礎的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，アントレプレナーシップ概論Ⅰ・Ⅱなどの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
3 回生	<p>教育協働人材として必要となる高度な英語運用能力と国際協働に関する高度な専門的知識・技能を修得するとともに，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を養う。</p> <p>また，教育協働の概念を踏まえ，教育コラボレーション演習，コミュニケーション実践演習などの学びを通じて教育協働実践に向けた基礎技能を修得する。</p>
4 回生	<p>4年間の教育課程の集大成とし，教育協働人材としての必要な知識・技能に係る到達点と課題を確認し，課題克服に努めるとともに，創造探究演習Ⅳの学びを通じて，社会の一員として連携・協働するために必要となる課題解決に向けた探究力を高める。</p>

電子ポートフォリオ（履修カルテ・教育実習カルテ）操作マニュアル

< 履修カルテ利用の流れ >

学 生		教 員
4 月初旬 前期授業 開始時	【1.学修成果評価（目標設定時）】 当年度前期の学習や卒業後の目標を入力します。	
9 月頃 前期成績 通知後	【2.学修成果評価（自己評価時）】 設定した前期の目標へのふりかえりを入力します。 【3.教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価】 各指標について、当年度前期の自己評価を入力します。 【4.履修カルテ（科目の履修状況）】 前期に履修した授業科目の学習のふりかえりを入力します。	
9 月下旬～ 10 月上旬		【学修成果評価】 学生の前期の目標および学習のふりかえりを確認し、コメントを入力します。
10 月初旬 後期授業 開始時	【1.学修成果評価（目標設定時）】 当年度後期の学習や卒業後の目標を入力します。	
3 月頃 後期成績 通知後	【2.学修成果評価（自己評価時）】 設定した後期の目標へのふりかえりを入力します。 【3.教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価】 各指標について、当年度後期の自己評価を入力します。 【4.履修カルテ（科目の履修状況）】 後期(通年含む)に履修した授業科目の学習のふりかえりを入力します。 【5.履修カルテ（自己評価）】 ※教員免許状取得希望者 自己評価（1 から 4）を行います。	
3 月下旬～ 4 月上旬		【学修成果評価】 学生の後期の目標および学習のふりかえりを確認し、コメントを入力します。
その他 (随時)	【6.学修成果評価（その他）】 当年度学期中に、授業以外の実習やボランティア活動等があれば、状況を入力します。	

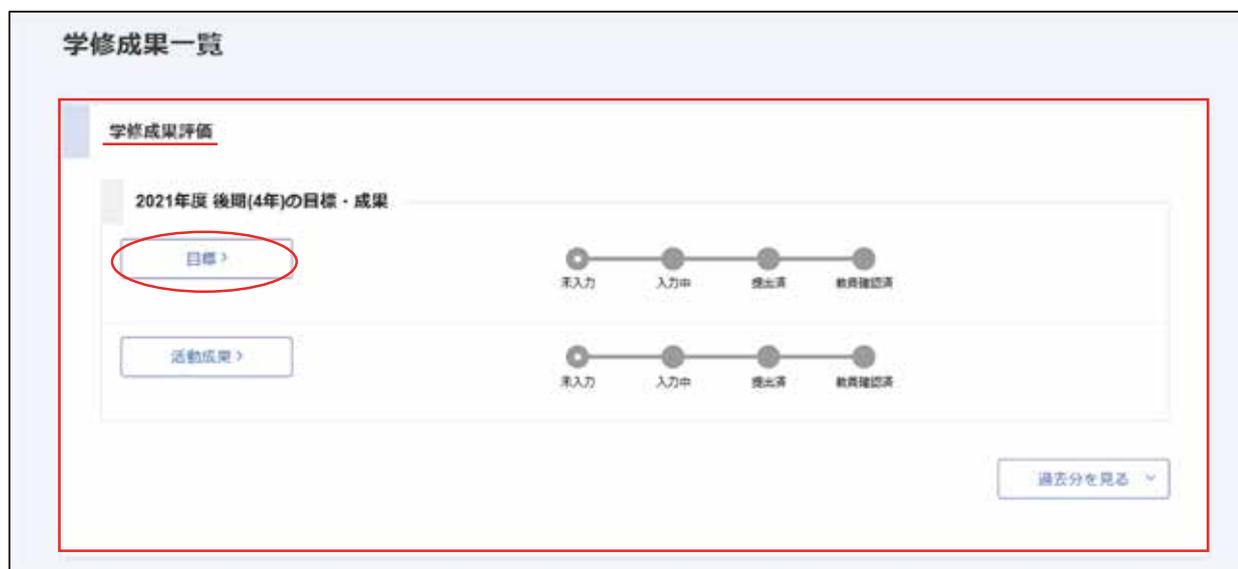
【1.学修成果評価（目標設定時）】

- Live Campus にログインし、 menu から「学修ポートフォリオ>学修成果シート」を選択します。



- 学修成果評価の「目標」を選択します。

※現在年度・学期が表示されています。「過去分を見る」ボタンから以前の入力内容を参照したり、遡って入力することができます。



- 画面右下の「**目標を編集**」を選択します。

- 「**目標**」欄が編集可能になりますので、**【目標設定】**を入力の上、画面右下の「**登録**」ボタンを選択してください。

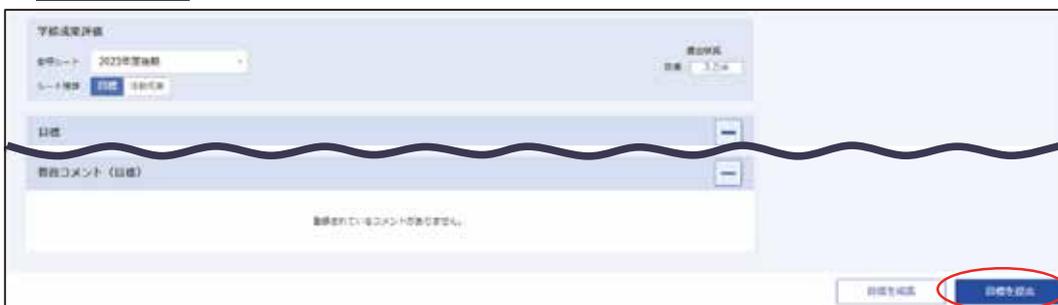
4月初旬前期授業開始時、
10月初旬後期授業開始時 に
当該年度の各学期のシートに入力、登録します。

9月頃前期成績通知後、
3月頃後期成績通知後 に
当該年度の各学期のシートに入力、登録します。
目標設定時は、提出は不要です。

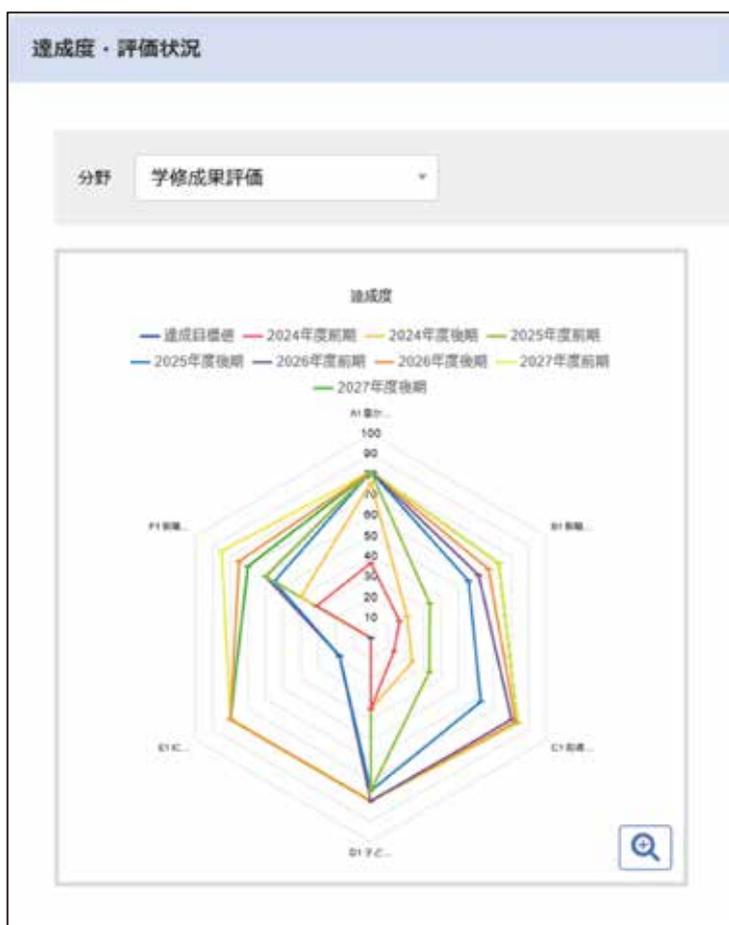
【2.学修成果評価（自己評価時）】

- 【1.学修成果評価（目標設定時）】同様に、画面右下の「**目標を編集**」を選択します。「**目標**」欄が編集可能になりますので、**【自己評価】**を入力の上、画面右下の「**登録**」ボタンを選択してください。

- 【**自己評価**】の登録後、入力内容を確認の上、画面右下の「**目標を提出**」ボタンを選択してください。



- menu から「学修ポートフォリオ>**成績ダッシュボード**」を選択することで、レーダーチャートを確認できます。レーダーチャートは、学位プログラムの到達目標に対応する授業科目をカリキュラムマップとして整備の上、到達目標への到達度を表しています。授業科目の履修状況に応じて、レーダーチャートが拡大していく仕組みとなっています。



【学位プログラムの到達目標】

<教員養成課程>

- ①豊かな教養と広い視野
- ②教職に必要な素養
- ③指導内容の理解と実践力 ※1
- ④子どもへの対応の理解
- ⑤ICTや教育データを利活用する力 ※2
- ⑥教職力量を自らひらく力

※1 養護教諭養成課程の③は、養護実践力

※2 学校教育教員養成課程のみ

<教育協働学科>

- ①豊かな教養と広い視野
- ②教育理解
- ③協働力
- ④探究力 ※3
- ⑤専門的知識・技能
- ⑥教育協働実践力

※3 令和7年度入学生より適用

【3.教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価】

- menu から「学修ポートフォリオ>学修成果シート」を選択します。

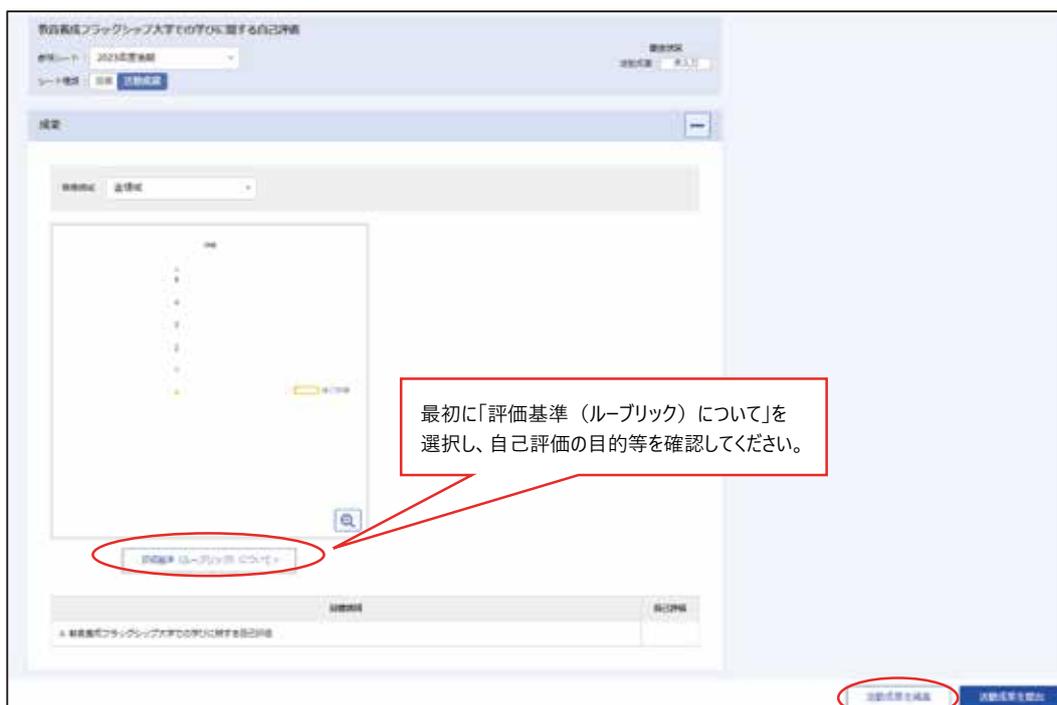
教員養成フラッグシップ大学での学びに関する自己評価の「活動成果」を選択します。

(「目標」も表示されますが、使用しません)



- まず、「評価基準（ルーブリック）について」を選択します。自己評価の目的・情報の取り扱い・回答の考え方をよく読んで理解してください。

- 自己評価の目的や方法について理解した後、画面右下の「活動成果を編集」を選択します。



- 「振り返り」の各項目にある「自己評価」を入力してください。
すべて入力後、画面右下の「登録」ボタンを選択してください。

「追加」欄は使用しません

< 選択項目(5段階) >
 5：とてもできる
 4：できる
 3：すこしできる
 2：ほとんどできない
 1：全くできない
 (全く分からない)

登録

- 登録後、画面右下の「活動成果を提出ボタン」を選択してください。これで入力完了です。

活動成果を提出

【4.履修カルテ（科目の履修状況）】

- menu から「学修ポートフォリオ>履修カルテ」を選択します。
履修カルテ一覧が表示されますので、「参照」ボタンを選択後、
画面右下の「履修カルテを編集」を選択します。



- 学期末の成績公開後、「履修カルテ科目の履修状況」欄から、
各科目において学んだことや課題のふりかえりを入力します。
「修得年度」を変更することで、以前に履修した科目のふりかえりを確認、入力することができます。



- 入力後は、画面右下の「登録」ボタンを選択してください。登録は何度でも行うことができます。

【5.履修カルテ（自己評価）】 ※教員免許状取得希望者のみ

- 教員養成課程の学生及び教員免許状取得を希望する教育協働学科の学生は、年度末に、当該年次の「自己評価」を4段階で入力します。

【6.学修成果評価（その他）】

- menu から「学修ポートフォリオ>学修成果シート」を選択し、学修成果評価の「活動成果」を選択してください。
- 当年度学期中に、授業以外の実習やボランティア活動等があれば、「授業以外の実習やボランティア活動の状況」欄に入力してください。

<教育実習カルテ利用の流れ>

	学 生	教 員
実習校や活動を行う学校園が決まったとき	【教育実習・サポート活動歴】 教育実習・学校インターンシップ・学校サポート活動を行う「体験・実習(活動)先, 実習教科/評価授業等(科目名), 期間」を入力します。(実習教科/評価授業等:教育実習と学校インターンシップ科目は履修科目, それ以外は学校サポート活動)	
		【教育実習・サポート活動歴】 指導教員が学生の体験・実習(活動)先等を確認します。
教育実習・学校インターンシップ・学校サポート活動後	【教育実習・サポート活動歴】 実習等を行った「体験・実習(活動)先, 実習教科/評価授業等(科目名), 期間」を入力(更新)します。	
	【教育実習評価欄】※教育実習のみ 実習終了後1週間程度を目途に自己評価(1から4)を入力します。	
		【教育実習・サポート活動歴】 指導教員が学生の教育実習・サポート活動内容を確認します。 【教育実習評価欄】※教育実習のみ 指導教員が学生の自己評価を確認します。
教育実習の学校評価開示(事後面談) 前期8月 後期1月頃	【教育実習評価欄】※教育実習のみ 学校評価(1から4)と自己評価の違いを確認し, 指導教員と振り返りを行います。	
		【教育実習評価欄】※教育実習のみ 指導教員が学校評価と学生の自己評価の違いなどを確認し, 事後指導(事後面談)に活用します。

【教育実習・サポート活動歴の入力】

- Live Campus にログインし、 menu から「学修ポートフォリオ>履修カルテ」を選択します。
履修カルテ一覧が表示されますので、「参照」ボタンを選択後、
画面右下の「履修カルテを編集」を選択します。
- 画面下部の「教職に関する体験・実習等の状況」欄から、以下内容を入力してください。
複数の実習等を行った場合は、「追加」ボタンを選択して入力欄を追加してください。

The screenshot shows a web form titled "教職に関する体験・実習等の状況" (Experience and Practice Status related to teaching). The form is organized into several sections:

- 種別 (Category):** A dropdown menu with "教育実習" (Education Practice) selected.
- 体験・実習先等 (Experience/Practice Location):** A text input field containing "〇〇市立〇〇小学校" (〇〇 Municipal 〇〇 Elementary School).
- 実習教科/評価授業等 (Practice Subject/Evaluation Class):** A text input field containing "教職インターンシップ I" (Teaching Internship I).
- 期間 (Period):** Two date pickers showing "2020/09/09" and "2020/09/27".
- 学んだこと・課題 (What I Learned/Issues):** A large text area with the placeholder text "(学んだこと・課題の入力は任意です)" (Input of what I learned/issues is optional).
- 削除 (Delete):** A checkbox with a question mark icon.

At the bottom left of the form is a "+ 追加" (Add) button, and at the bottom right is a blue "登録" (Register) button.

【教育実習評価欄の入力】

- Live Campus にログインし、 menu から「学修ポートフォリオ>学修成果シート」を選択します。
- 画面下部に、「基本実習」「併修実習」が表示されます。(次ページ参照)

※所属によって表示内容が異なります。

教員養成課程の各専攻・コースごとの表示内容の詳細は次ページを参照してください。

- ・基本実習 1・・・教員養成課程の基本実習， 教育協働学科実習(中高・高)， 小学校教育(夜間)5年専攻実習 I
- ・基本実習 2・・・次世代教育専攻 ICT 教育コース①②・教科教育専攻美術・書道教育コース（書道分野）の基本実習，
特別支援教育専攻の特支実習， 小学校教育(夜間)5年専攻実習 II
- ・併修実習 1・・・教員養成課程の併修実習
- ・併修実習 2・・・教員養成課程の併修特支実習

●今年度参加した実習の「活動成果」を選択します。（「目標」も表示されますが、使用しません）

※昨年度以前に実習参加した場合、「過去分を見る」ボタンから昨年度の入力内容を参照できます。

例：2021年度教員養成課程4回生が、3回生時に参加した基本実習を参照する場合
 →「基本実習1」の「2020年度(3年)の目標・成果」の「活動成果」を選択してください。

※5回生以上で今年度実習参加した方は、(4年)の欄に入力してください。

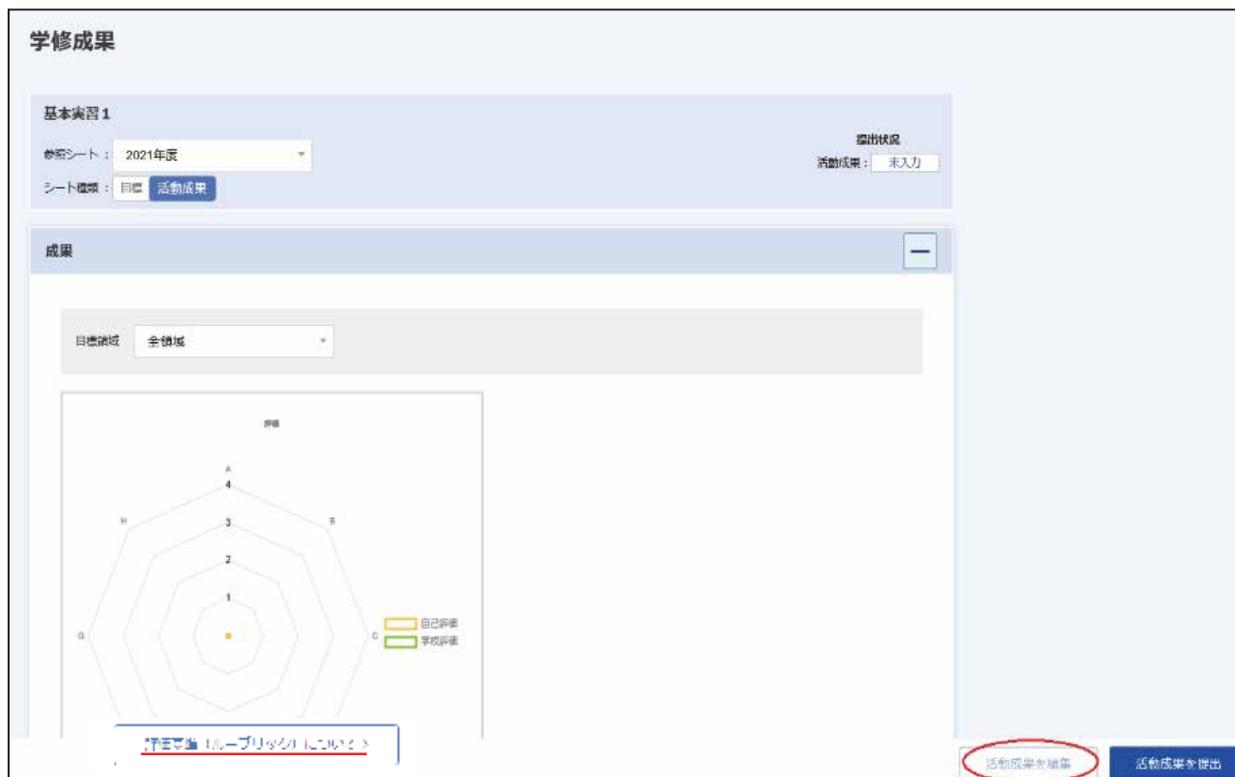
専攻・コースごとの LCU ポートフォリオ表示内容



専攻・コース	開講 回生	実習種別	LCUポートフォリオ 表示内容
幼小教育専攻 幼児教育コース	3	幼稚園実習	基本実習1
幼小教育専攻 小学校教育コース	3	基本小学校実習	基本実習1
	4	併修中・高校実習	併修実習1
	4	併修特別支援実習	併修実習2
次世代教育専攻 教育探究コース	3	基本小学校実習	基本実習1
	4	併修高校実習	併修実習1
	4	併修特別支援実習	併修実習2
次世代教育専攻 ICT教育コース①	3	基本高校実習（情報）	基本実習1
	4	基本小学校実習	基本実習2
	4	併修特別支援実習	併修実習2
次世代教育専攻 ICT教育コース②	3	基本高校実習（情報）	基本実習1
	4	基本中学校実習（数学）	基本実習2
	4	併修小学校実習	併修実習1
教科教育専攻 教科教育コース 書道分野除く	4	併修特別支援実習	併修実習2
	3	基本小・中学校実習	基本実習1
	4	併修高校実習	併修実習1
教科教育専攻 教科教育コース 書道分野	4	併修特別支援実習	併修実習2
	3	基本小学校実習	基本実習1
	4	基本高校実習（書道）	基本実習2
特別支援教育専攻	4	併修特別支援実習	併修実習2
	3	基本小学校実習	基本実習1
養護教諭養成課程	3	基本特別支援実習	基本実習2
	4	併修高校実習	併修実習1
小学校教育（夜間） 5年専攻	3	養護実習	基本実習1
	4	小学校Ⅰ実習	基本実習1
	5	小学校Ⅱ実習	基本実習2

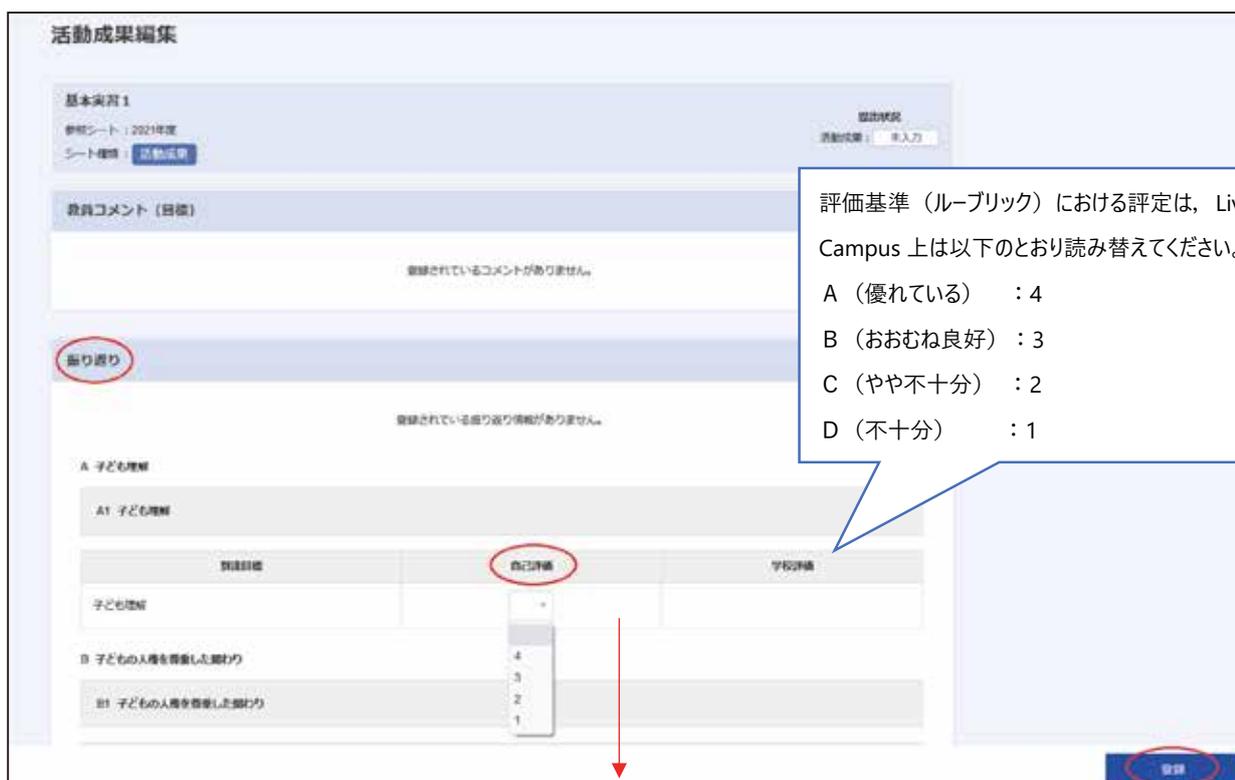
●画面右下の「活動成果を編集」を選択します。

なお、レーダーチャート下部の「評価基準（ルーブリック）について」を選択すると、教育実習の評価規準とルーブリックを PDF ファイルで確認できます。



●「振り返り」の各項目にある「自己評価」を入力してください。

8項目すべて入力後、画面右下の「登録」ボタンを選択してください。



- 登録後、入力内容がレーダーチャートに反映されていますので、確認の上、画面右下の「活動成果を提出」ボタンを選択してください。これで入力完了です。





国立大学法人

大阪教育大学

大阪教育大学 教務課

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

TEL.072-978-3265

<http://osaka-kyoiku.ac.jp/>